

## 「第4回 埼玉医科大学リハビリテーション科・相澤病院総合リハビリテーションセンター 夏季ジョイントセミナー」が開催されました

平成20年8月2日(土)、相澤病院ヤマサホールにて、「第4回 埼玉医科大学リハビリテーション科・相澤病院総合リハビリテーションセンター 夏季ジョイントセミナー」が開催されました。本セミナーは、リハビリテーションに関する新しい知識の習得と、地域におけるリハビリテーションの標準化の一環として、毎年開催されているものであり本年で4回目となります。本年のテーマは「脳卒中リハビリテーションのUp to dateと地域連携」と掲げ盛大に開催されました。

参加者は、埼玉医大・相澤病院・連携医療機関の医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療相談員・義肢装具士およびその開発に携わるエンジニアの方まで幅広い分野の方、総勢160名余りが参加されました。

近年、脳卒中片麻痺患者に対する装具療法の進歩はめざましく、定量化された歩行分析の結果に基づく新たな装具療法の知見が発表されていますが、今回の特別講演として歩行分析と下肢装具開発の第一人者である国際医療福祉大学大学院の山本澄子教授をお招きし「バイオメカニクスからみた片麻痺者の歩行と短下肢装具」と題した講演を頂きました。歩行分析の結果から、



国際医療福祉大学大学院 福祉援助工学分野 山本 澄子 教授

歩きやすさを追求したGaitSolutionDisign(GSD)の開発過程や、GSDを使用することで「杖を使って歩ければ良い」という目標から「走る・自転車に乗る」など更に高い歩行能力を目指したりハビリテーションが行えるようになってきているとの今後の期待に満ちた講演を頂きました。

また、本年4月より相澤病院に来られた井上勲医長より「上肢機能改善に対するリハビリテーションアプローチレビュー」と題したレクチャーを頂きました。現在、機能回復に有効性のある治療法には、CI療法、



相澤病院総合リハビリテーションセンター 脳卒中理学療法部門 関谷俊一

イメージ療法、随意収縮促通方式のTherapeutic Electrical Stimulation(TES)、ロボット利用の上肢機能訓練などがあり、機能回復訓練は脳の可塑性に刺激を与える訓練でないと効果はなく、いかに患者さんの自発的訓練意欲を高め、患者さんの状態に応じたバリエーションに富んだ今までの方法論にとらわれない自由な発想で楽しい方法を考案していくことの重要性を講義頂きました。

演題発表では、相澤病院から1演題、埼玉医大から2演題が発表され、双方の最近の取り組みについて活発な意見交換がなされました。今後の課題とリハビリテーションの方向性について考える場となりました。

今回、これまでにない多職種・多病院の方々に参加して頂き、幅広い分野の視点から様々なご意見を頂いたことでリハビリテーションに携わる各分野の専門家の皆さんの活躍や考えを学ぶ良い機会となりました。本セミナーの内容が今後の取組みの一助となり、また次年度のセミナーへと繋がることを期待したいと思います。

相澤病院 総合リハビリテーションセンター 山下博克

